

# テンプス

2013年（平成25年）51号



つげ櫛

## も く じ

貝塚市の特産品“つげ櫛”

古絵図をひも解く

改修前と改修後—2枚のため池絵図—

古文書講座

孝恩寺の仏像 - 菩薩① 弥勒菩薩 -

「貝塚市の70年写真展」開催中



貝塚市イメージキャラクター つげさん



# 貝塚市の特産品“つげ櫛”



市制 70 周年事業の一環として貝塚市の新しいイメージキャラクターとなったゆるキャラ“つげさん”は、生産シェア全国第 1 位をほこる貝塚市の特産品“つげ櫛”をモチーフにしています。貝塚市域でのつげ櫛の生産は、平安時代中期 11 世紀ごろに書かれた『新猿楽記』（しんさるごうき）という書物に「和泉櫛」として登場するほど歴史の古いものです。今回のテンプスでは、つげさんゆかりのつげ櫛に関する伝説や歴史について紹介します。

## “つげ櫛”の由来

つげ櫛の由来については諸説ありますが、貝塚市沢にある櫛の神さま「八品神社」（右写真は昭和初期の神社本殿、右下写真は同時期の神社全景）の創建とかかわって次のような 2 つの話があります。

欽明（きんめい）天皇（539 年～ 571 年）の時代、泉州近木（こぎ）の里、沢の海岸に一人の異人が立っていました。人びとは「何びとだろう」とこの異人を取り囲んだところ、異人は左右の手に四つずつ、八つの刀器を握っていました。やがて沢の地で生活を始めた異人は、ある日持っていた八つの刀器を取り出して、木片を削って平たい板を作り、さらにこれに歯を立て、溝をつけて、見たこともない器物を作り、みずからの髪の毛をといて、たいそう愉快気にほほえみしました。こうして、人びとは異人から髪をとくために使う木櫛の造り方を教わりました。この噂は都にも聞こえることとなり、沢の地は木櫛造りの地として朝廷から認められました。木櫛造りを伝えた異人はのちに神として崇（あが）められ、左右の手に四品ずつ八品を持っていたことから、八品明神として祀られることになりました。



もう一つの話は以下のようなものです。

欽明天皇の時代、御殿（ごてん）の柱の虫喰いが不思議な八品の形をあらわし、これを陰陽（おんみょう）博士に占わせたところ、「これは櫛というものを作る道具です。絵図に写し取り御殿の破風（はふ）にかけておいたならば、三日のうちに不思議なことがおこるでしょう。この絵図の飛んでいったところを「櫛作所」または「八品明神」としておまつりしてください。」と言いました。



そして、天皇が勅書（ちよくしょ）をそえて絵図を破風にかけてたところ、怪しい鳥が飛んできてこの絵図をくわえ、沢村から少し西にはなれたところへ落としました。その場所に光がさしたため村人たちが集まってみると、絵図には櫛の作り方がくわしく書きつけてありました。それ以来、沢村では櫛作りがはじまり、しだいに周辺の村々にも広まっていきました。

またこのほか、二色の浜の海岸をさまよう八種類の櫛を髪にさした女性の話などが地元語り継がれており、八品神社とつげ櫛の由来として現在に伝えられています。

### 櫛の生産地と櫛挽職人・木櫛商人



古くは「和泉櫛」あるいは「近木櫛」とよばれたつげ櫛は、古代から中世にかけて近義郷（こぎ郷）とよばれた貝塚市の南西部一帯がその生産地として有名で、生産された櫛は都の宮中や院の御所などにおさめられていました。

櫛の生産地であった近義郷は、今から約700年前、鎌倉時代の終わりに高野山の丹生（にゅう）神社の領地として朝廷から同神社へ寄進されました。これは、1274年（文永11年）と1281年（弘安4年）に来襲した蒙古（元）の大軍を撃退できたこと（文永・弘安の役）を神に感謝するためになされたものでした。

その後、1293年（永仁元年）、近義郷は荘園「近木庄」（こぎのしょう）となりました。近木庄の時代になると、木櫛作りの職人（上写真、貝塚の史跡めぐり（I）『近義地域の史跡』より転載）は「供御人」（くごにん）と呼ばれました。彼らは関所の通行権や独占販売権を認められて、生産した櫛を諸国で売買交易するようになっていきました。こうして全国での流通量が増加するにつれて職人の数も急増していきました。

江戸時代になると、岸和田藩領下の近木庄の村々では500人から600人、隣接する貝塚ト半寺内（かいづかぼくはんじない、願泉寺ト半家領）には100人前後の職人がいました。また、「木櫛屋」とよばれた櫛問屋（櫛仲買）も近木庄・貝塚ト半寺内ともそれぞれ10人前後のものが居住していたことが記録に残っています。

明治時代以降も貝塚市域は木櫛の生産・流通の全国的な拠点でしたが、安価なセルロイドやプラスチック製品が流通するにつれて、伝統的な手工業であった木櫛の生産量は次第に減少していきました。

このように、“つげさん”のモチーフとなった“つげ櫛”は1000年以上の古い歴史を持つ貝塚市の特産品です。手入れをすれば一生物といわれるつげ櫛は、南海本線貝塚駅前の貝塚ぶらんどショップ（ぷらっと貝塚／貝塚市観光案内所）等で展示販売されています。



# 古絵図をひも解く

## ◆改修前と改修後—2枚のため池絵図—

ここにある2枚の絵図は福田村（現在の貝塚市福田周辺）下池（現在は今池と呼ぶ）を描いたものです。

左側の絵図【図1】の中央には「福田村下池古絵図」（池を地と書き間違えている）とあり、右側の絵図【図2】の中央には「福田村下池出来立新絵図」とあります。タイトルからも【図1】が改修前、【図2】が改修後の絵図であることがわかります。改修時期については、1752年（宝暦2年）・1769年（明和6年）・1771年（明和8年）・1790年（寛政2年）など何度か行われているものの、関連する古文書（人足帳など）から1793年（寛政5年）の改修工事と考えられます。



図1 福田村下池古絵図 342mm × 240mm <福原家文書>

二つの絵図を比較してみると、共通点と相違点がはっきりしてきます。まず、共通点は水を池から送り出す樋（ひ）の位置です。大きさの大小はありますが同じ北側（絵図の下）に二か所（記号＝卅）描かれています。同様に北側の大堤、南側（絵図の上）の上池（小池とも呼ぶ。現在の福田公園。）との境の様子は変化が見られません。



図2 福原村下池出来立新絵図 345mm × 245mm <福原家文書>

これに対し、西側南寄り（絵図の右上）に【図1】では①「古水込」が描かれ、【図2】ではこの「古水込」の位置を南にずらして②「南新水込」が設けられていることがわかります。この池には、近木川をせき止め麻生郷一带に供給している麻生井の水が注いでいます。その水込み口を改修することで、水のスムーズな流入を図ったものと考えられます。

それとともに、東側（絵図の左）の様子も一変しています。【図1】では③「原付無」と堤防が作られず、田が直接池に接しているのに対し、【図2】では④「東新堤」が設けられ、⑤「場踏壱間」（堤防上に幅約1.8mの道路）と⑥「新溝」が確認できます。

とくに、この「東新堤」の完成によって、隣接する田地には面積の減少などの負担はあったものの、池の水が田へ染み込むことが避けられました。同時に、下池の周囲すべてに堤防がめぐらされ、貯水量を増加させるなど、旱魃（かんばつ）の被害軽減に大きな役割を果たすことになりました。

江戸時代のため池は、このように村人たちで維持・管理に努め、安定した収穫を確保すること、また水不足とならないように池の貯水量を引き上げるなど、たゆまぬ努力の賜物でした。今はかつてほど農業用水としての需要はなくなり宅地化が進められていますが、当時の村人たちが心血を注いで守り抜いた歴史が、どのため池にもあるのです。

# 古文書講座

## ◆「江戸時代のため池と池普請」

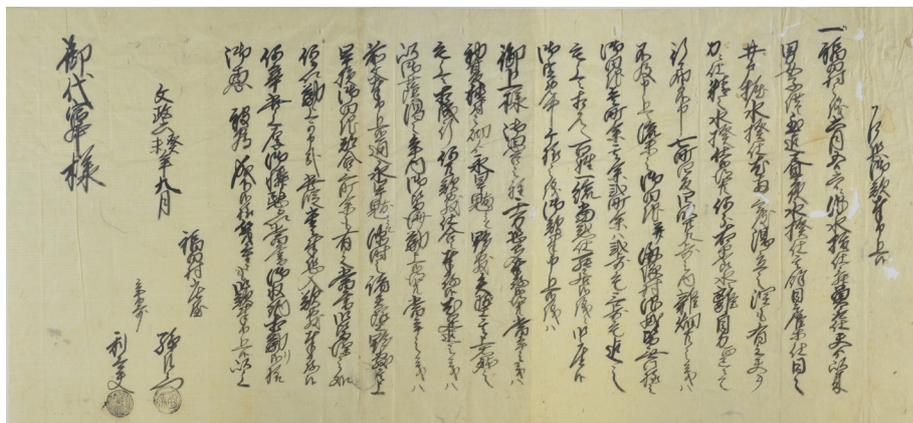
平成25年11月13日から12月11日にかけて毎週水曜日の5回にわたり、「江戸時代のため池と池普請」と題して古文書講座を開催しています。

今回は、1596年（慶長元年）から1837年（天保8年）にかけての約240年にわたる水利・ため池にまつわる史料を用いて、村と村との利害や、村と領主（岸和田藩）との支配を見ています。

その中で、興味深い点は村人たちそれぞれが所持する田を自ら「御大切成ル御田地」と呼んで、領主へ「御年貢」を差し出すための大事な田だと表明しているところです。「御」の字を何度も重ねているのは、災害から田を守り、村人がこうむった損害を救済することが領主の責務である、という「仁政」（恵み深く思いやりのある政治のこと）意識が村人たちに浸透していたためです。

天候に左右される農業を生活基盤とする江戸時代に、たくましく生き抜く村人の力強さを感じます。かつてこの国の主要な産業は農業であり、水は欠かせないものでした。とくに泉州地域は雨の少ない瀬戸内海の気候で、古代からため池が作られ、村人たちによって維持管理が行われてきました。

このように、古文書講座では江戸時代の古文書をもとに、当時の人びとの暮らしに注目しています。奮ってご参加ください。



「永早魁につき御恵歎願書（文政6年）」＜福原家文書＞

## □古文書講座 43（通算 202 回～ 206 回）開催のお知らせ

テーマ：江戸時代の山の利用と争論

日時：第1回 平成26年3月5日、第2回 3月12日、第3回 3月19日

第4回 3月26日、第5回 4月2日

いずれも水曜日午後2時～4時30分

会場：貝塚市民図書館2階視聴覚室

資料代：100円

申込：住所、氏名、電話番号を明記の上、はがき・Eメール・FAX、電話いずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連絡先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）貝塚市郷土資料室

TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7107

E mail shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

# 孝恩寺の仏像 - 菩薩① 弥勒菩薩 -

貝塚市木積(こつみ)の孝恩寺には、平安時代の制作で地方色豊かな19軀(く)の仏像が安置されており、うち18軀が重要文化財に指定されています。今回は、菩薩のなかから弥勒菩薩坐像を紹介します。

## 【重要文化財】木造 弥勒菩薩坐像 1 軀

時代 平安時代前期(9世紀前半)

像高 85.7cm

指定年月日 1913年(大正2年)4月14日

弥勒菩薩は、弥勒の浄土とよばれる兜率天(とそつてん)で修業をしており、釈迦入滅(じゅめつ)の56億7千万年後の未来に姿をあらわして、衆生(しゅじょう)を救済するといわれる未来仏です。

本像は、頭部には肉髻(につけい)をあらわし、通肩(つうけん)の上に偏袒右肩(へんたんうけん)の着衣をまとい、両手を胸前にして掌(てのひら)を見せ、左右とも第一・三指を結び、右足を前にして結跏趺坐(けっかふざ)しています。印相(いんそう)は中品中生(ちゅうぼんちゅうしょう)印という阿弥陀如来に特徴的なものであることから、本来は阿弥陀如来像として作られたのではないかという意見もあります。

頭部と体部は両手袖口までを含んでカヤの一材で彫り出し、頭部の螺髪(らほつ、現在脱落)・両手先・膝前は別材で、全身に黄土彩を施しています。後頭部と背中には内刳(うちぐ)りを施して、それぞれ蓋板をあてています。

面部は眼鼻を大きめにあらわして、芒洋(ぼうよう)とした表情をもち、肩を張った体部は量感豊かで、衣文(えもん)の彫りは粗くかつ深く、全体に重厚な印象を与えています。和泉地方を代表する9世紀初めの優れた仏像彫刻です。

### <用語解説>

- ・入滅：人間の迷いを捨てて悟りの境地に入ること、特に釈迦の死を指す。
- ・衆生：生きとし生けるもの。
- ・肉髻：如来の身体的特徴の一つで、頭部の盛り上がった部分のこと。
- ・通肩：二枚の布を体に巻きつけて両肩を包む着衣方法の一つ。
- ・偏袒右肩：右肩をあらわにする着衣の形。
- ・結跏趺坐：足の甲で左右それぞれ反対側のももを押さえる形の座り方。
- ・印相：仏や菩薩のもつ内面的な意思をあらわす手や指の組み方。
- ・螺髪：如来の身体的特徴の一つで、巻き毛状になった髪のこと。
- ・内刳り：木彫像において、木の干割れを防ぎ、重量を軽減するために木心を除くこと。
- ・芒洋：広々として限りないさま。
- ・衣文：彫刻などにおいて人物などの体に動きによって生じる衣服の線のこと。



平成 25 年度貝塚市歴史展示館企画展

# 「貝塚市の 70 年写真展」開催中

貝塚市では、平成 25 年 3 月 31 日に市制施行 70 周年記念誌『貝塚市の 70 年』を刊行しました。本展示会では、その編纂作業の過程で見つかった写真を通じて、昭和期の貝塚市内の様子を紹介します。

会 期：平成 25 年 10 月 18 日（金）～平成 25 年 12 月 27 日（金）

会 場：貝塚市歴史展示館（ふるさと知っとこ！館）

大阪府貝塚市半田 138 - 1（貝塚市民庭園内）

開館時間：毎月曜日・水曜日・金曜日

午前 10 時～午後 4 時（正午～午後 1 時は閉館、入館は午後 3 時 30 分まで）

入 館 料：無料

休 館 日：毎火曜日・木曜日・土曜日・日曜日、祝祭日

アクセス：JR 阪和線「東貝塚駅」下車 徒歩約 5 分



南海本線貝塚駅（昭和 29 年）



日紡貝塚世界選手権優勝市内パレード  
（昭和 37 年）



東京五輪聖火リレー（昭和 39 年）

## 『貝塚市の 70 年』販売中

『貝塚市の 70 年』は下記の場所で販売しています。冊子は A4 サイズで、総 302 ページ。カラーの写真や図表を取り入れています。

価 格：3,000 円（500 部限定）

販売場所：社会教育課（貝塚市教育庁舎 1 階）、郷土資料室（貝塚市民図書館 2 階）

## かいづか文化財だよりテンプス 51 号

平成 25 年 11 月 29 日発行

貝塚市教育委員会

〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 17 - 1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年 4 回発行：各 1,000 部

印刷単価： 41.58 円

## 広告募集中

50mm × 80mm（最終ページ） 1 枠

50mm × 175mm（2～7 ページ） 6 枠

詳しくは社会教育課文化財担当までお問合せください。

